



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

新年号
2024

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪 番 太田 法生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

■印刷:植平印刷株式会社

■旭川別院ホームページ

旭川別院 | 検索

新年挨拶



真宗大谷派 旭川別院 輪番

太田 法生

新年を迎え皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年もコロナウィルスの感染症をはじめ、ウクライナとロシアとの戦争の長期化、イスラエルとハマスとの戦闘、環境汚染による地球温暖化と自然災害等、心痛む状況の絶えない一年でありました。

さて、年末年始になりますと、多くの方々が神社に初詣に行かれる光景を見かけます。しかし私達、真宗門徒の皆様は、お寺のご本堂又は、ご自宅のお内仏に手を合わされたことであります。

では、どういう思いで手を合わせていますでしょうか。何かをお願いする方、感謝の気持ちを申される方、何も考えずに手を合わせる方、人それぞれ様々な方がいらっしゃることでしょ

う。まず合掌の姿というのは人間にとって一番尊い、綺麗な行儀であると思います。人間だけが手を使って器用に物

を作り、困っている人を助けたり、仕事をしたり、そして快適で便利な生活環境の発展を遂げてきました。しかし他

方では人を殺す兵器を作り、環境を汚染・破壊し続けた影響によって、困っているのは実は私達なのではないでしょうか。そうであれば、人間の手はあまり良いことに使っていないのかもしれない

合掌の姿は印度では「ナマステ」という挨拶で「あなたを尊敬し認めあいませう」という意味です。仏様に手を合わせるという事は、仏様の教えを尊敬し

帰依いたしますということになります。

新年をお迎えし、もし神仏に手を合わせて祈願をし、例えば「病気が治りますように」とか「お金持ちになりますように」という自分の都合で神様や仏様を利用し、取り引きをして、自分勝手に神仏を作りあげ、「ああなりたい」「こうなりたい」「あれが欲しい」と願っていたとしたら、それは少々思いついた傲慢な心ではないでしょうか。

仏教では一切の存在は「縁起」によつ

てあることを教えられます。いのちも「縁」によって生まれ、「縁」によって死するものです。もつと言え「生は偶然、死は必然」なのですが、私達はいつの間にか「生は必然、死は偶然」と錯覚してしまいます。

そのことによって、生きてあることが全て「あたりまえ」のことになってはいないでしょうか。その「あたりまえ」を前提に生活しているところには「感動」も「感謝」の心もおこりません。

私のお預かりさせていただいているお寺に、長年仏法を聴聞し続けた一人のおじいさんは、お寺に来るなりまず最初のご挨拶で、「ウラ、オレトゲニマ イッタガヤ」とご本堂に入って行かれるのである。「私は、お礼を遂げにお参りに来ました」と今は亡きその方が、お礼を果たしていく今日一日、一年の歩みであったことを想います。

私達の日頃「あたりまえ」としてしていることが、「南無阿弥陀仏」に、知らされ知らされ、育てられて、存在の事実が損得を超えて、誰とも替わることの出来ない、一度きりの人生を、どの様な人生であったとしても、あるがまま今ここに生かされてあるのです。

「一年の計は元旦にあり」と申しますが、真宗門徒のお正月は修正会という法要であり、私達の歩む方向を、軌道修正させて頂く日とさせていただくものです。

どうぞ本年もお寺にお参り下さい。

あいさつ



真宗大谷派旭川別院 責任役員

佐古 光臣

明けましておめでとうございます。昨年は、宗門にて宗祖親鸞聖人生誕八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が勤修され、旭川別院のご門徒様や崇敬ご寺院のご門徒様多数の参拝がありましたことは、仏法相続護寺の思いの賜物です。私自身も参議会議員として三月三十日の指定日に参拝いたしました、朝に家を出て京都のホテルまで十二時間を要しました、旭川から京都までは慣れてはいても遠く感じます。さて昨年の報恩講は、宣心院殿鍵役大谷暢文様が参修され太田ご輪番のものと厳かに務まり、東北以北最大の広さを誇る、お御堂には近年参拝者の減少が顕著になっているにも関わらず、今回は、コロナ禍以前に戻り多くのご門徒様が参拝され喜びに堪えません。

年頭にあたつての挨拶にはありませんが、皆様には今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

合掌

謹賀新年

代表役員

太田 法生

責任役員

○金倉 泰賢

新谷龍一郎

佐古 光臣

荒井 保明

常議員

○加藤 亨

諏訪 宣雄

脇坂 慎一

木下 雅之

田中 祥子

○宗隆 教信

塚本 信樹

生駒 雅彦

熊崎 智浩

福本 清

院議会議員

○相河 孔輝

○旭 正依

○桂 励

○桑谷 一成

○新田 守

○佐藤 英行

○川合トミエ

○向井 敏純

○屋敷 桂子

○野村 幸夫

○木津 勝

○三上 定子

○二坂 徹

○藤岡 明良

○松澤 正樹

○埴山 和成

○吉田 幸麿

○小澤 聡

○尾田 泰一

○荒木 靖人

○薮越百合子

○武藤 満

○安藤 信幸

○鈴木 康弘

○池田 由恵

監事

梶 勝洋

小城 公明

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(順不同・○印 崇敬寺院御住職)

信は願より生ずれば

念仏成仏自然なり



北海道教区第十七組 幸福寺

楠

信生

浄土真宗の法

題の言葉は、親鸞聖人が大切にされた浄土真宗の高僧の一人、善導大師の教えを頂いて詠われた和讃の一節です。句の全体は、次のようになります。

信は願より生ずれば

念仏成仏自然なり

自然はすなわち報土なり

証大涅槃うたがわず

真宗聖典

四九六頁

(意味：浄土真宗で説かれる信心は、阿弥陀如来の本願より生ずるのであるから、念仏によって成仏することは、自然である。仏の本願力によって成就している自然な真実の浄土であるから、そこに生まれるということは、この上ないさとり境地を得ることであり、疑う余地がない。確かなことである。) 成仏の正しい行とは何であるかに迷い、正しい信心とはどのようなことかと惑う私たちに、仏の本願は、真実の行として念仏を示し、真実信心として念仏の信を示してくださいました。

南無阿弥陀仏の名号に始まる成仏道は、久遠の時から伝承されてきた道であります。そのことを仏みずからが説いてくださったからこそ、念仏成仏は自然の道理なのです。念仏して生まれ

る浄土が真実の浄土であり、そこに至って大涅槃をさとするのは疑う余地がないのです。

なぜこのように言うことができるのでしょうか。それはこの御和讃の中で二度語られている「自然」という言葉が語ってくださいているのです。悪しき思いをもつていれば生活が荒み、善き考えで生きていけば生活が整えられることは自然です。人間の思いと質的には異なりますが、如来の願いと、その願いによって成就されたまこととまた、人間に真実の満足とすくいをもたらすという意味で自然である、という理由によるのです。

浄土に生まれてさとり道

浄土真宗は穢土と浄土の違いを明確にします。穢土とは、私たち凡夫の住む現実世界であり、浄土とは、煩惱のけがれを離れた仏・菩薩の清らかな世界です。

私たちは、この世での苦悩や不安を解消できる「さとり」ということに特別のひびきや魅力を感じます。しかし、苦悩や不安は、凡夫がこの世に生きている限りなくなるものではありません。なぜなら、苦悩や不安は、凡夫の業苦としてあるものだからです。このように、問題の原因が、凡夫であるというわた

したちの事実によるものである以上、「さとり」はこの世で求めて得られることではありません。

もちろん、凡夫であるからと言って「さとり」と無関係であるわけではありませぬ。真宗の教えは、この世でのさとりを求める聖者の道ではありません。この世でのさとりを説きませんが、浄土に生まれてさとり、凡夫に開かれた仏道であることを教えるのです。

人生の方向が

正しく定まる

『大無量寿経』下巻(真宗聖典 五十頁)の言葉です。

たとい世界にみてらん火をも、必ず過ぎて要めて法を聞かば、会ず当に仏道を成ずべし、広く生死の流を度せん。

この文のころは、たといありとあらゆる世界に満ちている火(煩惱と苦しみに満ちたこの世)の中をかき分けて、仏の名号を聞信する人は、かならず不退の位に契い、ながく流転の生活を超え出ようというところを失わない、という意味です。

どれほど教えを聞いても、世界に満ちる苦悩の火が消えるわけではありませぬ。それは、はかり知ることのできない過去からの罪業があるからです。その罪業とは、自分が誰かに罪なことをしたとか、誰かが自分を苦しめたというところにとどまるようなものではありません。人と人との関係だけで罪を考れば、怨と不信と、打破できないような行き詰まりに沈むのではないでしょう。ここで言う罪業とは、仏の教えを聞く生活によって、現在の自身の

罪悪深重をいよいよ知られるということ。このような罪業の実感によって罪悪深重ということが、凡夫における普遍的自覚となるのでしょうか。その意味で、念仏の教えによって見出された「共に業縁に悩む凡夫である」という眼によって、浄土の門の前に向かい立つことになるのです。

聞法の生活

オーム真理教、そして旧統一教会(現在は世界平和統一家庭連合)と、家庭の平穩を宗教の名において乱している事件を目の当たりにしますと心が痛みます。このような現代社会における宗教事情の中で、浄土真宗は社会に何を発信しようとするのか問われていると思われまます。

真実の宗教は、日常生活を全肯定も全否定もしません。全肯定は、いよいよ迷いを深めさせる懸念があります。全否定は、不安に陥れるマインドコントロール(他人の精神状態を自分の意のままに操ること)の危険があります。大切なことは、ただ「悔いのない人生を送ろう」と共に願うことだけです。

人生の悩みは、決して無意味なものではありません。遠い昔からの罪業の身を知り、仏から「念仏もうすべし」と呼びかけられることを知れば、悩みは、本願の機としての自身の分際を知る縁となるのであります。そのとき、その悩みは、決して方向を見失った悩みなのではありません。かえって、自身を浄土へ向かわせる縁として見ることを可能とするのです。この逆転を可能にするのが、念仏の徳であると言えるのです。自身の罪業と念仏の徳を聞き続けることが、聞法であり真宗門徒の伝統であります。

(完)

法座・行事案内予定

1月

1日 午前0時 修正会
16日 午後1時 同朋の会 列座
17日 午前11時 群萌の会
(初顔合わせ会) 輪番

18日 午前10時 婦人会

(ゲーム大会) 昼食あり 予定

28日 正午 旭川別院門徒新年会

後、壮年の集い(初顔合わせ会)

未定 午後1時30分 あゆみ会 列座

2月

1日 午後7時 公開学習会

7日 午後1時 群萌の会 列座

13日 午後1時 初心の集い 輪番・列座

16日 午後1時 同朋の会 列座

17日 午後7時 壮年の集い 列座

18日 午後1時 婦人会 輪番・列座

28日 午後1時 定例法座 講師未定

未定 午後1時30分 あゆみ会 列座

3月

1日 午後7時 公開学習会

7日 午後1時 群萌の会 列座

13日 午後1時 初心の集い 輪番・列座

16日 午後1時 同朋の会 列座

16日 午後7時 壮年の集い 列座

18日 午後1時 婦人会 輪番・列座

19日(21日) 午後1時 春季彼岸会

(乙部町正受寺御住職)

未定 午後1時30分 あゆみ会 列座

報恩講報告

令和五年十一月一〜五日

旭川別院報恩講を厳修させていただきました。鍵役・宣心院殿の御参修、御法中並びに雅楽会「和暢会」の御参勤、御講師・楠信生先生、伊藤秀先生の御出講、御門徒の皆様のお参詣をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本年も院内でのお斎の調理は中止とし、お弁当(三日、四日)・カレーライス(五日)の会食といたしました。以前と同様ではありませんが、お斎をいただく場が開かれまして、今一度お斎のお心を私自身が問い尋ねていくご縁をいただきました。

また、報恩講厳修にあたり、御門徒の皆様には準備から多大なる御尽力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

合掌



初心の集い

身近な仏事等と
輪番連続講話
一年間・八回

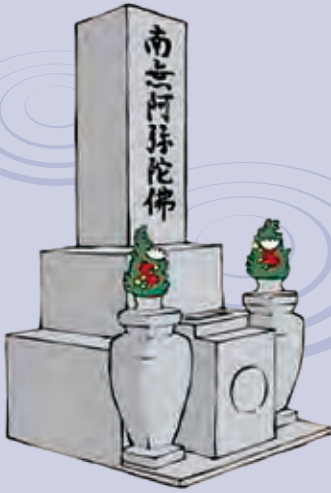
本年度も四月より列座と輪番のお話を中心に開講します。

日時 毎月十三日
四月・五月・七月・
九月・十月・十二月・
二月・三月
午後一時〜三時

内容 お勤め・身近な仏事等
(列座)・輪番のお話

*会員・会費制ではありませんのでどなたでも参加できます。

仏法 これあれ



真宗のお墓

- 軸石の正面には名号の「南無阿弥陀仏」※1か「俱会一処」※2を刻みましょう。
(これが親鸞聖人の教えの受け継ぐ真宗門徒の姿です。)
- 家名を入れる場合、上台石の正面か、花立て石、囲み石の柱などに刻みましょう。
- 法名のための碑(石版)に、真宗では「霊標」という文字は使いません。「法名碑」としたいものです。
- 水子地蔵や五輪塔などは真宗では必要ありません。
- 建てられた方の名前や年月は軸石の裏側などに刻みますが、「〇年〇月吉日」のように「吉日」の文字は入れません。
真宗は日の吉凶を全く言いません。
(井畑)

※1 仏さまに帰依する、おまかせすると言う意味があります。
※2 阿弥陀様の浄土でまた共に会わせていただくと言う意味があります。

別院子ども会

今年の行事予定

4月:新1年生対象万華鏡作り
6月:いちご狩り
10月:こども会報恩講
夏休み・冬休み・春休み:お寺でお泊まり会

昨年は3年ぶりに通常通りの開催に戻し、お泊まり会では20名程の参加をいただくなどにぎやかな子ども会が戻ってきたように感じます。

学校や日々の生活では中々体験することができないような、お寺ならではの楽しいイベントを沢山企画しています。ご案内の必要な方は別院までお問い合わせください。

皆様のご参加をお待ちしております。
※TEL 22-2409(担当:川村・水上)



門徒新年会のご案内

令和五年一月二十八日(日)正午より大谷ホールにて新年会を開催いたします。

会費は一五〇〇円(当日)になります。ご参加希望の方は旭川別院事務所まで連絡いただき、お名前、ご住所をお伝えください。申し込み〆切りは、一月二十一日迄です。

皆様のご参加お待ちしております。

春季彼岸会

令和六年 三月十九日(火)〜二十一日(木)

「亡き人からいただいた尊いご縁に出会う大切な行事」
旭川別院では、春と秋のお中日(春分の日、秋分の日)に彼岸会法要をおつとめします。彼岸とは、覚りの世界「浄土」という意味です。亡き人を偲ぶ事を通して、亡き人と出遇いなおし、そして自分自身の帰すべきところを定めよと呼びかけておられます。

皆様におかれましては、この機会を大切にさせていただきますよう念じまして、是非ともお参り下さいますようお願い申し上げます。

講場 時間 午後一時〜
場所 本堂
海老原 博師

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

夏が過ぎても気温が高い日が続き、木々の紅葉がなかなか進まず、地球温暖化を感じました。遅れながらも北海道らしい寒い季節がやってきて、ホッと胸をなで下ろしています。子ども達は、季節の移り変わりを日々の遊びを通して全身で感じていきます。

0歳児 ひよこ組



雨上がりの大谷の杜。水たまりに映る模様を触ってみます。

1歳児 りす組



一面の落ち葉や雪、氷など自然の美しさの中で様々な事を感じています。



雨が降った後はわくわくする遊びがいっぱいです！



風の強い日。スズランテープが風に飛ばされている様子を楽しんでいます。

2歳児 うさぎ組



10倍ルーペで葉っぱを見てみると、不思議な模様が見えました。



葉っぱに自由に模様を描いて…葉っぱアートです。

3歳児 こあら組

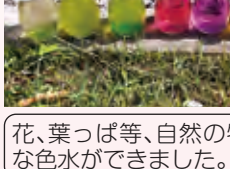


花、葉っぱ等、自然の物で綺麗な色水ができました。



雪が降ると早速杜へ！大きな雪玉を作ると、真っ赤な紅葉の模様になりました。

4歳児 ばんだ組



食育活動

枝豆、人参、じゃがいも、などなど沢山の野菜を収穫していただきました。きりん組のさつまいもが大活躍で、子ども達が「さつまいもイベント」を企画して、こあら組を招待しました。



食欲の秋。人参のパンケーキ、かぼちゃスープ、かぼちゃのホットケーキ、野菜たっぷりピザなど野菜中心のクッキングをして、美味しくいただきました！

★お楽しみ給食★ はさんでパンランチ



5歳児 きりん組

「どこに行きたい？」「何をしたい？」と話し合いを何度も重ねて迎えた当日。忍耐力があるかも！とお城の探検へ。途中天気が急変し、黒い雲と共に大雨が降って怖がっている友だちを勇気づけたり、「土砂降りだったって楽しもう！」と盛り上げてくれたり、頼もしい子ども達の姿がありました！



日章小学校からお招き頂き、学校訪問、遊びの広場に行ってきました。

★報恩講

お釈迦様、親鸞様のお話を聞き、お寺の報恩講に出席しました。



「今日は最高の日だ〜！」



ライトアップした秘密基地で夜ご飯をいただきました。

ご門徒の声

一枚のポスター



門徒 屋敷 桂子

東京での生活を切り上げ旭川に戻って来て春のお彼岸にお参りに行き、帰りに一枚のポスターに目が留まりました。初心の集いのお知らせでした。平成二十九年四月十三日より参加させて頂き現在に至っています。

正信偈の本を頂き、前ご輪番より節譜の事を教えて頂き皆でお勤めの練習を致しました。

その年の報恩講で外陣にて練習の成果をご披露致しました。初心の集いでは、始めに真宗宗歌を斉唱します。ふかきみ法にあいまつる…格調高く美しい旋律です。次に正信偈をお勤め致します。その時によって違うのですが「身近な仏事」としていろいろ学びました。お焼香の作法も、えっそうなの!!鈴はお勤めの時に打つもので、それ以外には使用しませんとか、ここでもえっそうなの!!えっそうなの!!の連発でした。最も衝撃だったのは、法事は生きている人の為、「死者から生者へ」生前ご縁の深かった亡き人を通して仏縁に遇わせて頂く大切な仏事と教わり、真逆であったと気付かされました。今は太田ご輪番から正信偈について学んでおります。婦人会の例会ではお勤めの後、ご輪番の法話があり又、大野主任の講座があったり井畑さんによるDVDで七高僧の事を学んだり仏教讃歌の練習をしたりとバラエティーにとんでいます。終わりにはお茶とお菓子を頂きながら座談があつて、最後に恩徳讃を斉唱して終わります。私はスタートが遅かったのですがいろいろの会で勉強しております。私にとって本堂は心が落ち着く特別な所でもあります。命の有限り一つでも多く聴聞出来ればと願っております。あのポスターを見なければ今の私は無いと思っております。ご縁を頂いたのでしょうか。

合掌

うどんダ

旭川別院報恩講が今年も無事厳修されました。「報恩講に始まり報恩講に終わる」と語り継がれるように、私達浄土真宗の門信徒にとって最も重要な年中行事とお勤めされます。

この親鸞聖人の恩徳に感謝する大切な法要ですが、年々別院でも参詣者の皆様が減少傾向にあります。聖人のお念仏の教えに出遇う人が少なくなってきたという事に他なりません。

蓮如上人は御文の中で「御同朋御同行とこそかきずきとおせられけり」と述べられています。「かきずく」というのは「大切に仕える」ということです。から、「親鸞聖人はお念仏に遇う私達を拝んで下さる」と言われるのです。

自分自身の姿を省みて果たして聖人から拝まれる生き方をしているだろうか。報恩講をお勤めするにあたり「大変だ」「忙しい」と、問題を外に置いて責任を転嫁しながら自己中心的な生き方で終わっていかかったらどうか。

布教の先生もご法話の中で「報恩講も自分のこととして聞くことがなければ見物人で終わりますよ」とお話されていました。今ここで私にまで届いた聖人の教え、遺徳を感謝するお参りができることは繋がりを生きたる真宗の歴史の中にあつたのです。

「報恩講」を何より大切にしてこられた私達の先人は、聖人の教えに触れ、浄土を真宗として力強く生きぬいて往かれました。

聖人の教えに遇う一人として、改めて今できることに感謝する生き方を、沢山のご恩の中、暮らせている身の事実を忘れてきたように思います。

(小宮山)

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいた葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



使用料 (葬儀・会場費込)

- 各広間 …………… 100,000円 (税込)
- 大谷ホール …… 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409